

ふるさとの川づくり協働事業

魚野川 南魚沼市坂戸地区

南魚沼地域振興局地域整備部(平成 18~19 年度実施事業)

地域住民の主体的な維持管理活動を後方支援した事例①

◎事業の全体像

ポイント！

日頃から、地域情報の収集しておくことが重要！地域内の住民組織の有無だけでなく、個々の活動内容・状況、相互連携の有無等を把握しておくことが、県民参加を進める上では、非常に重要なポイントである。

とりわけ、日常的に地域情報を収集するための情報源（地元市町村、地域住民、NPO 等）を、担当部局単位で有しておくこと、担当者が移動になっても、担当課内できちんと引き継ぐことが大切である。

ポイント！

地域内では、案外、住民組織同士の連携というのは進んでいない（コーディネーター的な中間支援組織がある地域は別）。こうした時は、行政側で「連携を促す場」を設けるだけで、大きく状況が変わる（相互連携が進む）ことは、往々にしてある。

旧六日町市街にある魚野川・坂戸山周辺では、地域住民が主体的に河川敷の草刈り活動を行っていた。そんな中、堤防に花を植えたいという要望が、行政側に寄せられた。

そもそもこの地域では、同じような活動をしている地元組織が複数存在していたが、相互の連携が弱かったことから、県・市が地域団体に呼びかけを行い、県・市・複数の地域団体で構成する「ふれあい魚野川プロジェクト推進協議会」を発足。

この協議会が契機となり、六日町地区の魚野川周辺で自主的に草刈等を実施してきた地域住民からなる「坂戸花水木の会」と「お六の公園をつくろう会」更に「六日町温泉旅館組合」が加わり、平成 18 年度に「ふれあい魚野川プロジェクトチーム」が発足した。

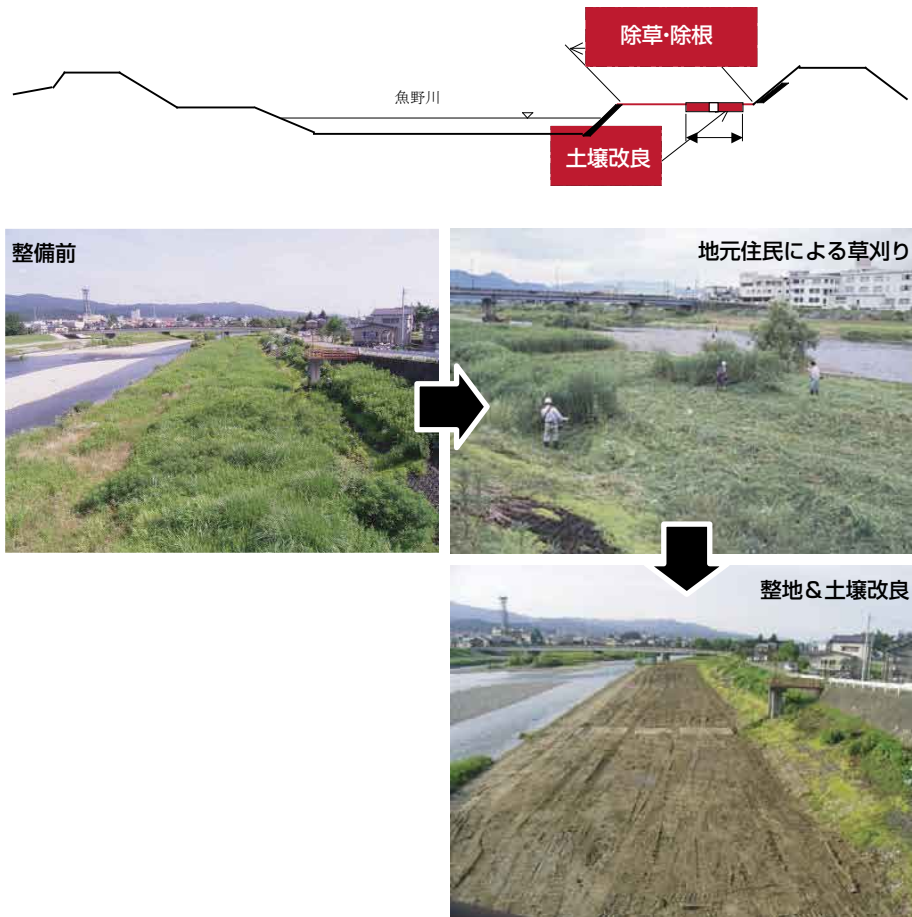
これを受けて県は、河川敷の整地と土壌改良を実施。その後、草刈り等の維持管理作業は、プロジェクトチームが実施している。また、堤防に植える花については、最初に撒く花の種のみをプロジェクトチーム支給している。（次年度以降は地域団体が咲いた花から種を採って増やしてもらっている）

(事業実施の背景)

旧六日町市街にある魚野川・坂戸山周辺は、JR 東日本企画の「駅からハイキング」NHK 大河「天地人」の H21.1 放映開始などにより、県外観光客の増加が見込まれており、南魚沼市においては、「かたくり」の保護や「坂戸城跡内堀」の復元など、来訪者への観光アイテム拡大・受入れに力を入れている。



魚野川（南魚沼市坂戸地内）の事例から学ぶ県民参加のポイント



◎事業の成果 行政（県・市）がコーディネーター役となり、地元住民団体同士のネットワーク形成を促した他、率先して河川敷の整地・土壌改良という環境整備を行ったことにより、住民活動が大きくレベルアップした。

（補足）

「ふれあい魚野川プロジェクトチーム」は、現在、訪れる方々に安らぎの場を提供する環境整備に加え、「魚野川の川舟（こうりんぼう）を復元する会」とともに、川舟の活用方策を含め、この地域の魚野川を活用した地域活性化を検討し、活動している。

ふるさとの川づくり協働事業（魚野川・南魚沼市坂戸地内）のポイント

- 市が持っている地元団体の情報を活かし、地元団体のネットワーク化を促した。
- 地元住民団体の連携を促すと同時に、整地・土壌改良等の環境整備を行政側で実施した。
- 県と市が互いに持っている資産を活かし、コーディネーターとして住民活動をレベルアップさせた。